

# グローバル社会における理学療法士の活躍に資する事例紹介

一般社団法人 宮城県理学療法士会  
国際交流・支援等委員会

## 「はじめに」

世界や国内から理学療法における、国際分野の需要と職能活動や社会貢献活動が必要となってきた。しかしながら宮城県理学療法士会では主体的な国際交流や支援、団体的活動などが行われていなかった。今後の展望として、日本理学療法協会が推進している World Physiotherapy 学会、アジアを中心とした予防・ヘルスケア事業、外国人診療や外国人材などを背景に、宮城県理学療法士会では部局や委員会を越えた協働活動、他団体との協調と連携により国際交流や支援活動を行い、地域貢献や職能活動を促進していく必要がある。

2019年に若手理学療法士活躍推進（E-nudge）委員会が設立し、研究推進・女性活躍推進・国際協力推進の企画を開催していた。その後、2021年5月に国際交流・支援等委員会が常設委員会として設立した。グローバル社会における理学療法士の士会活動と背景を報告する。

## 1. 活動概要

宮城県理学療法士会（Miyagi Physical Therapist Association;以下 MPTA）国際交流・支援等委員会における目的：

異文化・多文化の相互理解を深め、グローバルヘルスへの貢献や国際・地域社会の安定を目指す。

活動目標・方針として、

- ① 海外理学療法士や外国人との国際交流
- ② 在日・在留外国人や外国人材への支援
- ③ 多様化する社会へ柔軟に対応

これら3つを大事にしながら活動している。

※当委員会において、「国際的な活動の定義」をしていない。

時代の変化とともに、活動意義・方針を変更していくことで理学療法士として国際ニーズへ対応していく。定義しないことにより、固定観念と既成概念を作りすぎず多様性を意識し、柔軟に活動していくことを大切にしている。

## 2. 活動開始の経緯

### ① 活動が開始されたきっかけ（動機）

宮城県における外国人の現状では、出入国在留管理庁が公表した宮城県の在留外国人は、22,890人である(2020年12月現在)。国籍別にみると中国、ベトナム、韓国人、ネパール、フィリピン、インドネシア、ミャンマーこれら7カ国で全体の79%を占めている。また、宮城県では2025年度に、41,335人の介護職員不足が見込まれている。対策としても外国人を含む、介護職員の採用・確保・教育・定着の取組みを行っている。このような宮城県の多文化共生の促進事業としては、JICA東北や宮城県国際化協会、仙台観光国際協会国際化事業部などにおいて、県・市民参加による言葉、国籍、文化等の違いに関わらず、誰もが個性を發揮しながら、いきいきと暮らせる街づくり、国際交流及び協力の推進を図ることを目指して、様々な事業を行っている。

これらに対し日本理学療法協会国際事業として、①会員個人に対する海外留学の支援、②政府ならびに国際協力機構(Japan International Cooperation Agency: JICA)をはじめとする国際協力を展開する組織との協調と連携、③海外の協会との連携、④発展途上国ならびに災害発生地域などへの支援、⑤学術・教育に関する国際共同調査研究の推進、⑥アジアを中心とした日本の理学療法の技術移転と適用、⑦外国人へ理学療法診療や外国人材などがある。

これまでMPTAにおける国際活動では、オリンピック・パラリンピック競技への支援・協力(オリンピック諮問委員会)、各養成校における国際交流や国際教育授業が開催されていた。しかしながら主体的な国際交流や支援、国際事業の団体活動などが行われていなかった。

このように国際事業の社会的ニーズに対し、MPTAの部局や委員会を越えた協働活動、他団体との協調と連携により国際交流や支援活動を行い、地域貢献や職能活動の促進、国際分野への社会貢献の必要性が活動開始の背景となった。

### ② 活動開始までの準備（事務手続き、人間関係）

#### ● 組織体制の構築過程：

2019年12月に若手理学療法士活躍推進(E-nudge)委員会が常設委員会として発足。若手理学療法士の協力を募り、研究推進・女性活躍推進・国際協力推進の活動に向けが3名から始まった。その後、2021年5月に国際交流・支援等委員会が常設委員会として独立した。MPTA会長、そして役員の方々からの多大なるご支援やご協力により、若手活躍推進として活動が継続し、国際交流・支援等委員会の創設のきっかけとなった。

#### ● 準備期：

E-nudge委員会としての立ち上がりメンバーでは、研究や教育に携わっていた会員A氏が創設委員長であった。A氏からの声かけによりB氏が国際推進として加入となった。また、MPTA会長より女性活躍推進として推薦されたC氏による3名より活動が開始された。

- 人間関係：

E-nudge 委員会の発足以前（2019年7月頃）にA氏（大学講師）とB氏が国際に関する活動・支援などについて相談していた。また、B氏はMPTA副会長（大学准教授）へも国際活動や人材、協力隊経験者や国際委員会などの相談をしていた。その上で、D氏（大学リハビリテーション学部長・学科長）に直接相談をする機会を頂き、MPTA会長へと繋がることができた。MPTA会長へも国際分野の活動の必要性や行っていききたいことを相談することができた。以降、E-nudge委員会をA氏により発足された。活動をしていく中でE-nudge委員会へ加入・興味がある会員が増え、ニーズ調査、仲間集めを進めていった。これらはMPTA会長、副会長や役員からのご理解と多大なるご支援により委員会発足となった。具体的な支援としては、若手人材の紹介や繋がり、企画案や予算、自由な企画に対しての会長や役員より審議内容のアドバイスを頂いた。事前に年度計画や方針など運営に関わることを含め、準備期では相談する機会が多く行われていた。そして会長や役員からの広報や企画参加もあり、多大なご支援を頂いている。

- 事務手続き：

国際交流・支援等委員会は会長からの電話会議にて、常設委員会として2021年5月に創設され、MPTA組織へ位置付けられ、総会にて承認を得た。

### ③ 活動開始時の組織体制

国際交流・支援等委員会の活動開始時の組織体制作りでは、E-nudge委員会から2名のメンバー、ご協力頂いた講師2名、参加依頼1名の6名から活動が開始された。

企画については、前述の通りであり理事会にてご審議頂き予算、企画し運営に至った。また、2021年に初となる国際企画では、MPTA会長より東北県士会・東北ブロック協議会、宮城県作業療法士会、宮城県言語聴覚士会へ広報のご支援をいただき、東北や他職種とも繋がることができ、多様性や広報への幅が拓けた。活動の継続と拡大することにより、MPTA組織内としても、ニュースレターや公式LINEにて持続的な広報・活動報告し、徐々に周知されてきた。

※備考：

E-nudge委員会の有志に募ったメンバーは、活動開始に至った経緯や背景を共有し、運営方針をコアメンバーで作成、書類等を共有できるツール（Dropbox、Google、Slack）アカウントを作成した。

活動開催における企画書については、提案した資料相談しやすい方へ確認を受ける。企画について、活動支援いただける組織の副管理者に上申できる可能性を打診する。実現可能性を確認したのち、協力者を広く募る（自身の所属組織外からのネットワーク構築の上にて、職場の関係性による影響からハラスメント防止になる）。確認後に組織の管理者へ提案する。組織の理事会等の決定期間に事業説明を行う（理事会審議事項）。可能性と発展性を主張し、予算を得る。予算に応じて計画を具体化する。運営に向けた

準備を整え実行に移す。実行できたものは結果をデータに基づき報告し、成果により課題を明確にする。事業を継続する中で、さらに仲間を増やしていった。

### 3. メンバー概要

#### ① E-nudge 委員会活動開始時コアメンバーについて

- E-nudge 委員会発足時メンバー数：3名

A氏：9年目、教育・研究施設所属、国際経験は国際学会へ数日参加

B氏：9年目、訪問看護ステーション所属、JICA 海外協力隊経験者

C氏：7年目、医療施設所属、国際経験なし

※活動開始時経験年数（2019年度：E-nudge 委員会発足時の所属）

- その他：

E-nudge 委員会の企画として、ベテランと新人を巻き込める企画（オンライン歓迎交流会）を開催していた。しかし、参加者が少ないこともあり、MPTA 会費還元として QUO カード（コロナ禍対策前は MPTA 交流会運営費にて飲食交流であったが、オンラインとなり）配布、動作分析基礎編の勉強会を合わせた交流会にて開催していた。まずは興味を引く・周りを知ってみようかな・少し面白そう・QUO カードが貰える・動作分析の基礎を学べる機会・無料でメリットあるかも、という企画から進めていた。現在では、E-nudge 委員会における、5月の総会前の恒例企画として開催されている。

#### ② 国際交流・支援等委員会：メンバーについて

- 国際交流・支援等委員会参加メンバー：6名

- 参加メンバーの特性：

E-nudge 委員会メンバー：2名、国際へ興味あり

講師としてご協力得られた方：2名、JICA 海外協力隊経験者

国際リハビリテーション研究会：1名

※国際リハビリテーション研究会（Japanese Society of International Rehabilitation ; JSIR）は、「国際性という文脈を帯びた場におけるリハビリテーション」の実践と探究を目的としている。具体的には、リハビリテーションや介護・福祉、そして障害と開発における国際協力、日本国内に住む外国出身の方々へのリハビリテーションや介護・福祉などをその実践と探究を目的にしている。

JSIR リンク先：<https://int-rehabil.jp/>

- その他：

お声がけをして、良い反応がある方は加入いただけないかとメンバーを募った。他委員会や部署へも伺わせていただきましたが、企画に応じて、お互いに協力をしていくという形で共同事業の連携を取れるようにと相談をしていった。

③ 現在のメンバーについて

- 人数：7名（2022年度現在）
- 理学療法士経験年数：2年目～19年目
- 国際的な活動経験有り：7名
- A) 士会会員の国際感覚や言語能力の向上などを推進する取り組み：1名。宮城県理学療法士会国際交流・支援等委員会事業
- B) 他国の理学療法士協会などとの学術、教育交流：1名。フィンランド・韓国の大学との学術・教育交流
- C) 訪日・在日外国人に対する理学療法の提供、外国語の診療やコミュニティでの支援：2名。
- D) 国際やヘルスケア領域における理学療法士の職域拡大に関する取り組み：2名。

その他：国際活動経験

- E) JICA 海外協力隊経験者：4名（フィジー共和国、ドミニカ共和国、キルギス、ボリビア）
- F) JPTA 国際事業 他国協会との関係醸成部会員：1名
- G) JPTA 国際事業 JANNET 支援委員：1名
- H) 国際リハビリテーション研究会員：4名
- I) 宮城県国際化協会 医療通訳・災害通訳ボランティア登録：1名
- J) 外国人医療受入れコーディネーター：取得者2名
- K) 宮城青年海外協力協会：4名

④ 活動開始時や開始直後に、どのような情報があればよりスムーズに活動を開始できたか。

- 県士会会員における国際活動経験者に関する情報：  
MPTA 内における、国際活動に興味ある会員情報、役員や他部局からの国際経験者の紹介、国際活動をされた方との繋がりがあることにより、コラボ企画の可能性が広がる。
- 県士会会員の国際分野へのニーズに関する情報：  
MPTA 会員へ国際分野アンケートを実施、報告。
- JPTA の国際事業活動に関する情報：  
日本理学療法士協会国際事業活動の具体的な内容や MPTA としての国際事業に対する役割や連携方法。JPTA 国際活動に従事している方との繋がり、国際活動経験の共有（Global Café）

#### 4. これまでの活動経過・実績

活動経過：※太文字：国際関連活動

日時（参加人数） 企画名

##### E-nudge 委員会 企画

- ・ 2020/09/27 (23) : オンライン歓迎交流会
- ・ **2020/02/02** : **宮城県理学療法学会大会 口述発表 Web アンケート調査報告** **ー海外・国際分野ー**

##### 国際情報誌ブースの設置

- ・ 2021/05/22 (46) : 新人若手交流会
- ・ 2021/07/30 (29) : PT×ピラティス
- ・ 2021/08/11 (28) : 夏休み企画!リハ学生から先輩への相談会
- ・ 2021/09/14 (14) : ラフトークー理学療法士の主張 2021
- ・ 2021/10/22 (22) : TSUNAGUーWork & Life
- ・ 2021/11/25 (32) : TSUNAGUーSpecialists 「なりたい自分を見つけよう」
- ・ **2021/12/13 (28) : TSUNAGUーInternational 「海外活動とその後の多様なキャリア」**
- ・ 2022/04/23 (47) : 新人 PT 歓迎会ー新たな仲間と繋がろう
- ・ 2022/05/29 (43) : 新人・若手 PT 交流会+ミニ勉強会

##### 国際交流・支援等委員会が発足

- ・ 2022/09/21 (49) : 国際交流のミリョクと語学のキホン
- ・ 2022/12/14 (70) : スポーツ活動・国際活動経験ー東京オリンピック・パラリンピックを通して (E-nudge 委員会との共同企画)

## 代表的な国際関連活動・実績

【 2020 年度 】

### E-nudge 委員会 MPTA 国際分野ニーズ調査

宮城県理学療法学会大会：口述発表

日時：2020 年 2 月 2 日

作業エフォート：70%（Google form 利用のため作業量軽減）

#### 以下抄録内容

「宮城県理学療法士会 Web アンケート調査報告 -海外・国際分野-」

##### 【はじめに】

日本における疾病構造や地域社会の変化により、理学療法の役割や新たな職能活動が必要となってきている。また、世界に先駆けた少子高齢化社会への予防活動や普及・啓発を通して、多様性・グローバルに対応できる理学療法が求められてきている。しかし、宮城県理学療法士会（Miyagi Physical Therapist Association: 以下 MPTA）における海外・国際分野に対し活発な活動はできていない。今回、海外・国際分野における理学療法士の興味関心の参考を得ることを目的にアンケートを実施した。

##### 【方法】

Google フォームを利用し MPTA 公式 LINE にてアンケート調査を実施した。回答はチェック式、記述式にて集計した。質問内容については基本情報、海外・国際分野の興味関心、海外経験、外国人に対する理学療法の経験、外国人への理学療法にて対応に困ったこと、MPTA への要望記述式など 9 つの質問を実施した。

##### 【結果】

アンケート回答者数は 39 名であり、MPTA 会員数のアンケート回収率 2.5%、MPTA 公式 LINE 登録者数のアンケート回収率は 9%であった。「海外・国際分野へ興味があるか？」の質問に対して興味がある：12 名、少しある：13 名、あまりない：7 名、興味がない：7 名であった。「興味がない理由」としては語学力に自信がないから：8 名、海外や国際分野に接点が無いから：7 名と多数を占めていた。「国際分野の中で興味ある内容」としては、外国語講習を受ける：22 名、海外旅行：14 名、外国人に対する理学療法：13 名、グローバル化に対して興味がある：12 名、海外の学会大会に参加：10 名、海外で働く：9 名、オリンピック・パラリンピックに興味がある：6 名であった。興味がある方のうち：17 名が海外・国際分野への参加・活動経験があった。外国人に対して理学療法経験：20 名の経験があった。そのうち 16 名の困ったこととしてコミュニケーションの難さの結果を得られた。

##### 【考察】

今回のアンケート調査では MPTA 会員の 2.5%と回答者数が少ないことを踏まえた上での考察を前提としている。回答数が少なかった理由として、MPTA 全体への周知をしていない、国際分野に興味ある方が少ないことが挙げられる。回答の 64%の方が海外・国際分野に興味あったが、そのうち国際経験ある方は 43%であった。理由としては、国際分野や交流に関わる機会がなく、興味はあるがきっかけがない、語学力に自信がないなどが結果から考えられる。また、海外・国際分野に経験がある方は帰国後も継続的に他団体へ所属し活動を行なっている方、個人的に活動している方もいた。これらを踏ま

え、国際活動経験者や宮城県内における興味ある方と協力し、国際関係事業団体とイベント企画や国際交流、国際協力活動を行なっていく必要があると考える。その第一歩としてアンケート調査を実施し有意義な情報を得られた。

※別添 1：MPTA アンケート結果報告-海外・国際分野-配信用 2020 年 pdf

・2020 年度宮城県理学療法学会会場：国際情報ブース



県学会時は「国際情報誌ブース」を設けさせて頂きました。

作業エフォート：40%

国際情報誌情報提供：JICA 東北、宮城県国際化協会、仙台観光国際協会、青年海外協力協会へご連絡し、ご協力や了承を得られ、無償にてクリアファイル、マスクケース、下記資料を提供いただき設置した。

- ・ JICA 海外協力隊情報誌（クロスロード医療福祉・リハ分野・帰国キャリア）
- ・ JICA magazine、JICA 東北情報誌
- ・ 宮城県国際化協会情報誌
- ・ 仙台市国際事業 SenTIA
- ・ SDGs 資料
- ・ 国際関連本

※成果として減った枚数などを各団体へご報告した。

【成果】

- ・ 2022 年度国際交流・支援等委員の 1 名増員
- ・ 県内における国際団体との連携
- ・ JICA 海外協力隊情報誌クロスロード（リハ内容）、地方創生・活性資料、クリアファイル、マスクケースを持ち帰られる方が多い傾向があった。

## 【 2021年度 】

テーマ：TSUNAGU-International「海外活動とその後の多様なキャリア」

作業エフォート：70%

日時：令和3年12月13日（木）20:00～21:30

会場：Web（zoom ミーティング）

参加人数：28名（会員26名：秋田2名、岩手1名/委員13名/非会員2名）

### 【実施内容】

・下記3名の講師による講演（各30分）と事前質問に回答する形式での座談会を実施した。

講師1：元キルギス隊員 古川雅一氏（仙台医健・スポーツ専門学校）

講師2：元ドミニカ共和国隊員 菅原美波氏（仙台市地域包括ケア推進課）

講師3：元ポリビア隊員 菊池真美子氏（JICA岩手デスク）

・講義内容としては、プロフィールや海外活動のきっかけ、活動内容や葛藤、帰国後のキャリア、これからの活動についてお話いただいた。

・参加費用：東北の各県士会員無料、非会員1,000円(+手数料158円)。非会員2名からPeatixにて支払いがあった。

・座談会は参加申し込み時にgoogle formに記入して頂いた質問事項に講師が回答する形式とした。

・MPTA会長より東北県士会・東北ブロック協議会、宮城県作業療法士会、宮城県言語聴覚士会へ広報のご支援頂き、東北との繋がりを持つことができた。

### 【事後アンケート（回答者数10名）】

・回答者全員が参加してプラスとなる情報があったと回答した。

・海外経験者の方の実体験を聞いた。海外・日本での理学療法士の今後の展望が見えた気がしました！普段聞くことができない内容だった。ワクワクしました。親近感が沸いた。など満足度の高いご回答を頂きました。

・今後の企画について4件の回答があり、本企画と同様の内容で多様な意見を求める声や座談会の時間を長くする機会が求める声が聞かれた。



**TSUNAGU×International**  
～ JICA海外協力隊の活動と多様なキャリア～

開催日時：12月13日(月) 20:00～21:30  
オンライン：Zoom使用

参加費：無料：東北の各県士会員  
非会員：1,000円 + 手数料158円

講師：JICA海外協力隊経験者

	古川 雅一 氏	元キルギス隊員×学校教員 (仙台医健・スポーツ専門学校)
	菅原 美波 氏	元ドミニカ共和国隊員×行政×育児 (仙台市地域包括ケア推進課)
	菊池 真美子 氏	元ポリビア隊員×国際協力推進員 (JICA岩手デスク)

【お申込み方法】

URL <https://forms.gle/1BjWgENm4dyMnTKBBQ> QRコード

お申込み締切：当日まで可能  
※Zoom情報は参加申し込みされた方に  
開催の前日にお知らせします。

※非会員の場合  
お申し込み後に  
Peatixにて  
お支払いください

途中参加・途中退室自由です！ぜひお気軽にご参加ください！

主催：宮城県理学療法士会  
運営：E-nudge委員会、国際交流・支援等委員会

## 【 2022 年度 】

テーマ：国際交流のミリョクと語学のキホン

作業エフォート：70%

・日時：2022年9月21日（水）19時30分～20時30分

会場：Web（Zoom ミーティング）

講師：高橋恵里氏（国際リハ研究会・東北福祉大学）

：佐竹深雪氏（通訳案内士・宮城国際化協会医療通訳士）

参加人数：49名（25都道府県、内JPTA非会員PT1名）

主催：宮城県理学療法士会 国際交流・支援等委員会

共催：国際リハビリテーション研究会(Japanese Society of International Rehabilitation; JSIR)

後援：(公財)宮城県国際化協会(Miyagi International Association: MIA)

### 【背景】

2020年に実施した、MPTA国際分野調査アンケート結果から、「語学力に自信がない、国際との接点がない」こと上位に挙げられており、企画のきっかけとなった。国際交流にて学生交流を盛んに開催され、研究もされている高橋氏、語学（英語）や通訳、外国人対応のプロとして佐竹氏より講義を聞く、交流の企画を検討した。共催・後援としても、お互いに団体や活動を知る場にもなり、興味ある方の繋がり、県内からも新しい国際連携作りとしても、開催へ至った。

### 【実施内容】

国際交流の目的：国際的な理学療法活動や国際交流による知見（学生国際交流）やグローバルな取り組みを学ぶ。現在の外国人や今後の推移、多様な問題点などの背景、そして語学やコミュニケーションのはじめ方、MIAの取り組みや支援している側の工夫、異文化理解の重要性などを学ぶことができた。

### 【事後アンケート（回答者数24名：回答率49%）】

- ・満足度：83%の方が満足いただけた。
- ・具体的なコメント「理学療法士のさまざまな海外での活動の形を知れた」、「PT（専門家）と英語のプロとのコラボがとても面白かったです」、「在日外国人の方の現状を知れたこと、勉強法や実体験の話」
- ・運営や今後の企画への意見として、「研修後、オンラインお茶会？飲み会？気軽な雰囲気先生方の海外武勇伝、失敗から学んだ苦労話など聞きたいです。」、「インバウンド向けの外国人対応。特に英語圏ではない母国語を話す外国人」など頂きました。

### 【委員や講師より】

本企画には、共催・後援という形により宮城や全国へ広報し、幅広い世代と職種が参加できた。そして、国際交流や語学、そして外国人に対しても関心を持っていることが分かった。今後もニーズに応えられるよう、コラボ企画などを検討していきたい。

※別添2：国際交流のミリョクと語学のキホン事後アンケート pdf

国際交流のミリョクと語学のキホン  
～ 多文化理解 ～

【日時】 2022/9/21(水) 19:30～20:30 【開催方法】 オンライン(Zoom)

【参加費】 JPTA会員の理学療法士、他職種、学生 ⇒ 無料  
JPTA非会員の理学療法士 ⇒ 1158円  
※JPTA非会員の理学療法士の方は参加登録後にPaymで支払して下さい

講師  
高橋恵里氏 (東北福祉大学、国際リハビリテーション研究会)  
佐竹深雪氏 (宮城県国際化協会 医療通訳サポーター)

【参加申し込み】 ※締切⇒当日正午  
<https://forms.gle/poajLo2uuvVh6sA89>

主催：宮城県理学療法士会  
共催：国際リハビリテーション研究会  
後援：(公財)宮城県国際化協会  
運営：国際交流・支援等委員会、国際リハビリテーション研究会Northチーム

※情報提供等をご希望の方は、国際リハ研究会事務局 jsir.event@gmail.comまでご連絡ください。

## テーマ：スポーツ活動と国際活動経験～東京オリンピック・パラリンピックを通して～」

### E-nudge 委員会との共同企画

作業エフォート：70%

・日時：2022年12月14日（水）19時30分～21時（延長 21:35）

・会場：Web（Zoom ミーティング）

・講師：片岡洋樹氏（仙台医健・スポーツ専門学校）

「スポーツ理学療法への関わり方～東京パラリンピック経験を踏まえて～」

今野良紀氏（仙台医健・スポーツ専門学校）

「東京オリンピック経験と国際活動への携わり方」

・参加者数：70名（学生：23名、他都道府県：10）

・広報協力：日本理学療法士会 国際活動への協力者の人材バンク登録。

#### 【実施内容】

東京オリパラの経験を踏まえ、スポーツ現場の実践などに至る経緯、そして国際・国内大会における必要なスキルや知識、オリパラ公式の研修会や現場活動などをご講演頂いた。E-nudge 委員会コラボ企画として、若手理学療法士のキャリアや地域（普段のスポーツ現場）・国際活動への繋がりや活動を学ぶ企画を国際分野へ興味がある参加者へのきっかけづくり、挑戦し続ける大切さを学ぶことができた。延長時間に質疑応答を実施し、約30名が最後まで参加されていた。

#### 【事後アンケート（回答者数31名：回答率44%）】

・質問：自分自身キャリアや今後の人生のためにプラスとなる情報はありましたか？→

回答：あった（100%）

・具体的なコメント「普段聞けないジャンルの話がきけたこと、行動する大切さを学べたこと。」「理学療法士の職域を拡大できる可能性がある」「スポーツ理学療法に関わりたいたいという気持ちが増し、E-nudge の活動に対する興味も湧きました。」

※別添3：スポーツ活動と国際活動経験事後アンケート pdf

**スポーツ活動と国際活動経験**  
～東京オリンピック・パラリンピックを通して～

【日時】 2022/12/14(水) 19:30～21:00  
【開催方法】 オンライン (Zoom)

【参加費】 JPTA会員の理学療法士、他職種、学生 ⇒ 無料  
JPTA非会員の理学療法士 ⇒ 1158円  
※JPTA非会員の理学療法士の方は参加登録後にPeatixでお支払い下さい

【講師】  
**片岡洋樹 氏**  
「スポーツ理学療法への関わり方  
～東京パラリンピック経験を踏まえて～」  
(仙台医健・スポーツ専門学校)

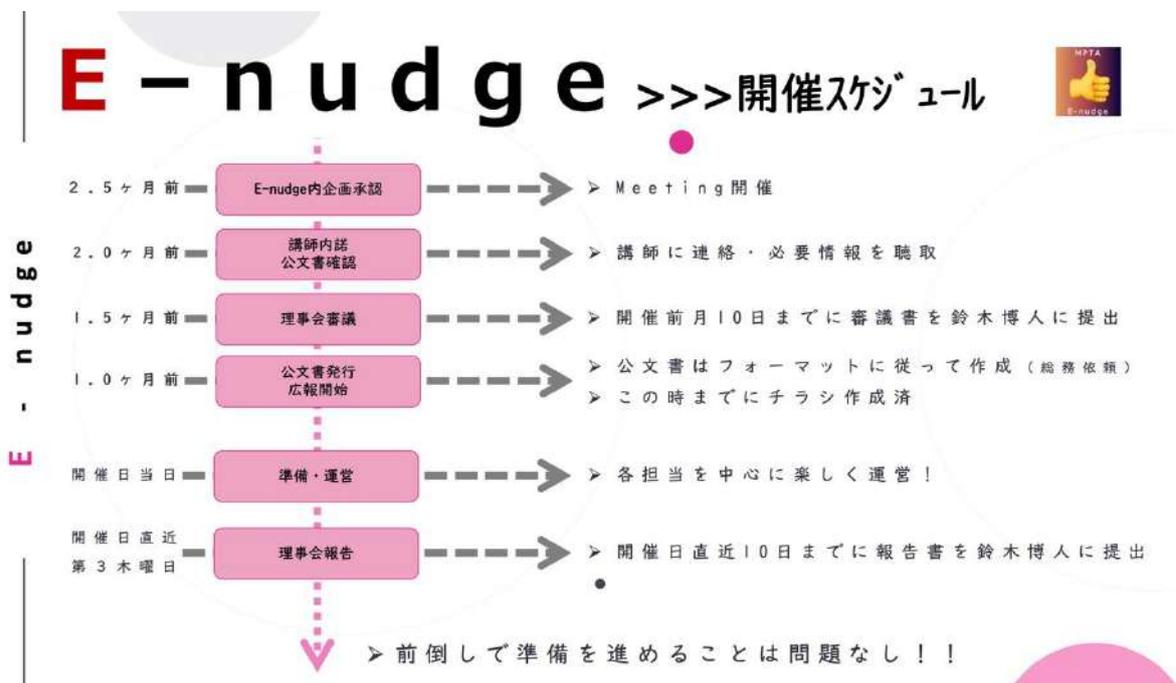
**今野良紀 氏**  
「東京オリンピック経験と  
国際活動への携わり方」  
(仙台医健・スポーツ専門学校)

【参加申し込み】 ※締切⇒当日正午  
<https://forms.gle/qy8wsDZfszy3TqNcA>

主催：一般社団法人宮城県理学療法士会  
運営：E-nudge×国際交流支援等委員会

## 活動に関する年間スケジュール

- 前年度末までに委員会内にて、次年度計画・予算について運営ミーティングを開催し、MPTA 総会へ向けた予算や事業計画を提出する。
- 計画案としては、委員よりアイデアを募り、実行可能な内容や時期を新年度の運営ミーティングにて不定期に開催している。企画事前ミーティングにより、詳細や役割・担当進捗状況を行っている。
- MPTA より学術大会にて利用している年間スケジュールを参考に資料配布をされているが、当委員会においては利用していない。
- E-nudge 委員会では、下記スケジュールを参考に、開催までの流れ、時期・役割分担を決めて進めている。これらを委員へも周知し、開催までの計画から準備へ取り組んでいる。



## 5. 委員活動のメリット・デメリット

### 本活動に参加することによるメリット

- 国際感覚の向上を目的とした勉強会等を企画でき、繋がるができること
- 国際経験豊かな先生方のお話を聞けること
- 他国の情報得られること、国際に関わっている方とつながりができること
- 理学療法士の活動一つである『国際』をお伝えし、会員が将来の目標を見つける一助に繋がると思う
- 顔が広がる、運営の仕組みや方法を知ることができる、仕事のモチベーションが上がる、学ぶ環境に身を置き続けることができる
- 人と知り合える。他者の意見がわかる。イベント運営における試行錯誤ができる。通常の研修会企画では困難な企画を行える
- 未来への可能性を感じられる
- 興味分野が似た知人に知り合えたこと

### 本活動に参加することによるデメリット

- 特になし：5名
- 準備や運営に時間や手間がかかる
- 他役割との両立の困難さ

## 6. 活動展開と持続性

### ① どのような活動を展開していくか（活動内容）

#### 【 2023 年度事業計画 】

部局・委員会、他団体と共同し、勉強会（年4回）開催  
オンライン会議、現場からのハイブリッドシステムを利用した方法で計画  
運営計画：会議を年間5回程度開催予定

- 国際理解・開発教育講演（仮）：多文化共生と東北の在住外国人の現状、JICA 東北との共同企画
- 海外在住の理学療法士の活動を知ろう（仮）：JICA 海外協力隊の派遣現地からオンライン
- 国際スポーツ企画（仮）：スポーツを通じた国際活動経験
- JPTA 国際事業課の活動とこれから（仮）：協会と県士会の連携

その他：アイデアとして

- 介護、福祉現場での外国人労働者との共同事業（トランスファー指導、腰痛予防の介護方法）、日本語がある程度話せる外国人との交流、宮城県在住の外国人との意見交換会
- 積極的に関わりたい方を対象に、国際交流の情報提供：MPTA 公式 LINE にて共有
- 国際交流に興味を持っていない方を対象に、外国人の受け入れへの意識啓蒙、理解促進
- MPTA のニュースレター、ホームページ、公式 LINE での活動内容の掲載

### ② どのように活動組織を大きくしていくか（活動組織）

- 県士会内での広報戦略やメンバーを拡充させていく
- 東北の国際交流経験者とコラボ企画を開催していく
- E-nudge 委員会を通して若手や学生へも興味ある企画を開催していく
- 他団体との協働、地域の国際交流支援団体への働きかけ

### ③ どのように活動を持続させていくか（持続可能性）

- 発信や広報を続けていく：  
MPTA ホームページ、公式 LINE、ニュースレター、他団体や個別対応などに対して広報を継続に行なっていく。
- メンバーの確保：  
活動実績からも、日本理学療法士会からの広報ご協力、国際リハ研究会との共催、宮城県国際化協会から後援など理学療法士のみならず他県、他職種の参加が増え、新しい繋がりが活動へと発展している。さらに興味あることややってみたいこと
- 予算の確保：  
他委員会や他部署とのコラボ企画、他団体との共同事業活動として、財政的な負担軽減とともに、広報拡散や多方面へのニーズに沿った企画、開催が可能となっている。
- アイデア：

- 他団体に所属している会員も多く、各団体にてできることの枠組み・自由度・予算・ニーズなどの違いがあるため、共同していくことで幅広く対応し、win-win となれるようにしている。委員としても国際分野のみならず、多方面に活躍されている方が多いため、アイデアや共同、情報共有がしやすい。
- MPTA 会長や役員、委員メンバー、他団体や皆様からのご協力やご支援、ご理解、繋がりやきっかけを元に少しずつ形にできている。今後とも他士会との情報共有をきっかけに、コラボ企画なども検討していきたい。

## 7. これまでの活動財源とその財政状況

- ① 当委員会の 2022 年度予算の事業費 282,000 円、運営費 64,500 円となっている。4 企画で医師を講師とした案もあり、予算を多く算出した。しかしながら 2 企画の開催となり、事業費 47,090 円、運営費 0 円であった。支出は講師費が主となっている。
- ② E-nudge 委員会の事業予算は 136 万円あり、自由度が高く、参加費無料や会員へと還元しやすい企画を行っている。  
デメリットとしては、登録 PT・認定ポイントなどが付与されないこと、企画テーマ・内容では参加者が集まりにくいこと、運営経験のない若手も多いためサポートが多く必要なこととなっている。

### これからの活動財源

これからも主たる活動財源は、MPTA 会費となっている。また、他団体と事業共同や予算を組むことにより、活動の広がりや持続性へと繋げていく。

### 「さいごに」

「今の若手理学療法士が MPTA の未来を作る」と会長や役員からも率先的にサポートを頂き、活動が開始され、企画・運営も継続できている。新しい社会課題に対する理学療法士としての活躍が重要あり、コラボ活動や他団体との共同事業として、誰一人として取り残さない活動へも繋がっている。若い世代の「やってみたい・やりがい・きっかけ作り」としても nudge することができ、MPTA も活性化している。

### ※別添資料：

1. MPTA アンケート結果報告-海外・国際分野-配信用 2020 年 pdf
2. 国際交流のミリョクと語学のキホン事後アンケート 2022 年 pdf
3. スポーツ活動経験と国際経験事後アンケート 2022 年 pdf